

## 平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	救急救命士養成事業	所管	消防本部 救急課
			TEL 2929-9123

事業の目的 (何の為に 行うか)	市内で発生した傷病者の救命率の向上を図るため、高度な医療知識と技術を備えた救急救命士を養成する。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	救急隊員(救急業務に従事する消防職員)	対象とした数	63
		実際に 利用した数	33

活動の内容	(何を したか)	①救急救命士国家試験の受験資格基準を満たすため、救急隊員を救急救命士養成所に派遣する。 ②薬剤投与、気管挿管のできる救急救命士を養成する。 ③救急救命士養成所をはじめとする公的機関が開催する研修等へ救急隊員を派遣し、知識、技術を習得させる。 ※救急救命士養成所派遣基準: 救急隊員の資格を得てから5年以上の実務経験を有する者、又は2,000時間以上救急業務に従事した救急隊員							
	活動実績	項目名	救急救命士養成数	3	項目名	救急救命士養成数 (累計)	36	項目名	単位
			単位	人		単位	人		単位

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	7,532	7,418	12,115	35.7

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	救急救命士養成率	救急救命士資格取得者(累計)÷救急隊員数(名)	63 単位 人	36 単位 人	57.1 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 [ ]				
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止				
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了				

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 * 有り⇒下記評価へ 無し⇒終了					
	総合 評価	拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 [ ] 終了				
	予算	現状どおり * 増額 減額 終了				

# 平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当部課コード	100400	区	2929-9123
事業コード	救急救命士養成事業	担当部課	消防本部 救急課		
100406		グループ	救急指導		
開始年度 平成 3 年度 一 終了年度 平成 年度					

②事業の概要	事業の種類別	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	<input type="checkbox"/> 法定受託＋附加	根拠法令				
	分野別計画・指針	なし							
	関連・類似事業	なし							
	総合計画の体系	政策	第6章 みんなが安心して暮らせるゆとりあるまち	施策	1節 消防・救急	中柱	3 救急業務の高度化	小柱	(4) 救急隊員の教育の充実
③事業の内容	H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 13 位								
	実施計画における位置づけ…H19 ○ H20 ○								
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ								
事業開始の背景	救急に対する国民のニーズの高まり、とりわけ救急隊員の行う応急処置等の拡大に対する世論の高まりを背景として、救急隊員の資質の向上を目指し、平成3年に救急救命士法が施行された。このことから、医師の指示の下に高度の応急処置が行える救急救命士の養成が必要となった。								

④前年評価と改善点	目的(何のために行うか、具体的に)	市内で発生した傷病者の救命率の向上を図るため、高度な医療知識と技術を備えた救急救命士を養成する。				
	対象(誰を、何を対象としているのか)	救急隊員(救急業務に従事する消防職員)		利用数の考え方 救急救命士の資格取得のため派遣された救急隊員		
	対象数	単位	平成 18 年度	63	平成 19 年度	63
	利用数	単位	平成 18 年度	3	平成 19 年度	33
事業の具体的な内容及び実施方法						
①救急救命士国家試験の受験資格基準を満たすため、救急隊員を救急救命士養成所に派遣する。						
②薬剤投与、気管挿管のできる救急救命士を養成する。						
③救急救命士養成所をはじめとする公的機関が開催する研修等へ救急隊員を派遣し、知識、技術を習得させる。						
※救急救命士養成所派遣基準:救急隊員の資格を得てから5年以上の実務経験を有する者、又は2,000時間以上救急業務に従事した救急隊員						

平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	◀ 最終評価 <input checked="" type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 ▶				
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] )				
予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
平成19年度中に改善した点					
薬剤投与可能な救急救命士を8名養成した。(平成18年度実績2名)					
気管挿管可能な救急救命士を5名養成した。(平成18年度実績3名)					
救急救命士の資格を持つ者を新規採用職員の条件に加え、救命士の増員を図った。					

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		7,484	7,532	7,593
	決算 (見込み含む)		6,846	7,418	
	(嘱託職員) (臨時職員)	( 人 ) ( 人 )	( 人 ) ( 人 )		
	正規職員人件費	0.50 人	4,600	0.50 人	4,697
	公債費				
	事業費合計		11,446	12,115	
	財源内訳	一般財源	11,446	12,115	7,593
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他				
市民一人当たり(単位:円)					
33.9					
35.7					
利用数一単位あたり(単位:円)					
3,815,333.3					
367,121.2					

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	活動実績	救急救命士養成数	救急救命士の国家資格を取得した職員	人	3	3	3
		救急救命士養成数(累計)	救急救命士の国家資格を取得した職員(累計)	人	33	36	39
成果分析	救急救命士養成率	救急救命士資格取得者(累計) ÷ 救急隊員数(名)	人	目標値	63	63	72
				実績	33	36	
			%	達成率	52.4	57.1	

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性 <input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大す <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体 消防本部
他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合	受量と負担の関係	受益者負担の有無	見直しの必要性
	<input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input checked="" type="checkbox"/> 統合等必	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

明らかとなった課題 心肺停止傷病者の救命率向上のためには、薬剤投与等の救急救命士が行う救急救命処置が必須である。このことから、薬剤投与が実施可能な救急救命士を計画的に養成する必要がある。

⑧二次評価	今年目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
	平成20年度における目標設定	救急救命士3名を養成する。	救急隊員を救急救命士養成所に派遣する。救急救命士国家試験を受験し、資格を取得させる。	H21.3
		気管挿管、薬剤投与のできる救急救命士を養成する。(気管挿管4名、薬剤投与7名)	実施に必要な講習および病院実習を修了させる。	H21.3

⑨評価理由	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] )		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
	評価理由	年々増加する救急事象及び高齢化社会に的確に対応するためには、専門的知識・技術の習得は必須である。このことから、救急救命士の育成事業については今後も引続き実施していく必要がある。また、救急救命処置範囲の拡大により、気管挿管、薬剤投与のできる救急救命士を更に養成し、救命率の向上に努める必要がある。		
評価日	平成20年5月7日	記入者職氏名	救急課長 荒幡憲作	

⑩事前評価	事後評価	平成21年度における事業の方向性				
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] <input type="checkbox"/> 終了				
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
事前評価	部内優先順位… 8 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
評価理由	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	評価理由	救急体制の高度化に対応するため着実な人材育成の必要性を認め「引き続き実施」と評価した。				
評価日	9月1日					

⑪環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し 計画コード				
⑫個別計画における方向性	施策の体系	施策の方向			
⑬次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し 計画コード				
基本目標					
主要課題					
施策の方向					